

令和6年度 諫早東特別支援学校 学校評価結果

令和6年度 長崎県立諫早東特別支援学校 学校評価 教職員アンケート結果

番号	評価内容	平均
1 教育活動		3.8
1	教育目標は児童生徒の教育ニーズや保護者の願い等を適切に盛り込んでいる。	3.7
2	教育目標に基づいた児童生徒の成長を促す教育実践が適切に行われている。	3.6
3	明るく活気のある学校作りを行っている。	3.9
4	「個別の教育支援計画」などにより保護者と連携しながら教育活動に取り組んでいる。	3.7
5	児童生徒が主体的に活動しようとする授業や学校行事を行っている。	3.8
6	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.8
7	ICT 機器活用など教材教具の工夫により、一人一人に分かりやすい授業を行っている。	3.9
8	児童生徒に寄り添った指導・支援をしたり、相談を受けたりしている。	3.8
9	児童生徒の人権を尊重した取組を行っている。	3.8
10	いじめの防止や早期発見に努め、学校全体で組織的に対応している。	3.9
11	自分で将来の生き方を選択する能力や態度を育てるキャリア教育に適切に取り組んでいる。	3.8
12	児童生徒や保護者に対して進路に関する情報を提供している。	3.6
13	防災教育や事故防止など安全に対する意識が高まる指導を行っている。	3.7
2 教育環境		3.8
14	校舎内外の施設の整備や清掃、美化に努めている。	3.7
15	安全点検や危険個所の補修などを行い、安全な環境作りを行っている。	3.8
3 開かれた学校		3.7
16	ホームページを適宜更新し、教育活動や学校生活を情報発信している。	3.4
17	地域の方や地域の学校と情報共有しながら、交流学习を行っている。	3.6
18	学校行事、育友会活動、学校公開など保護者や地域の方が参加しやすいように実施している。	3.8

令和6年度 長崎県立諫早東特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果

番号	評価内容	平均
1 教育活動		3.8
1	教育目標は児童生徒の教育ニーズや保護者の願い等を適切に盛り込んでいる。	3.7
2	教育目標に基づいた児童生徒の成長を促す教育実践が適切に行われている。	3.8
3	明るく活気のある学校作りを行っている。	3.7
4	「個別の教育支援計画」などにより保護者と連携しながら教育活動に取り組んでいる。	3.8
5	児童生徒が主体的に活動しようとする授業や学校行事を行っている。	3.7
6	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.6
7	ICT 機器活用など教材教具の工夫により、一人一人に分かりやすい授業を行っている。	3.7
8	児童生徒に寄り添った指導・支援をしたり、相談を受けたりしている。	3.8
9	児童生徒の人権を尊重した取組を行っている。	3.9
10	いじめの防止や早期発見に努め、学校全体で組織的に対応している。	3.7
11	自分で将来の生き方を選択する能力や態度を育てるキャリア教育に適切に取り組んでいる。	3.5
12	児童生徒や保護者に対して進路に関する情報を提供している。	3.6
13	防災教育や事故防止など安全に対する意識が高まる指導を行っている。	3.8
2 教育環境		3.8
14	校舎内外の施設の整備や清掃、美化に努めている。	3.7
15	安全点検や危険個所の補修などを行い、安全な環境作りを行っている。	3.8
3 開かれた学校		3.6
16	ホームページを適宜更新し、教育活動や学校生活を情報発信している。	3.8
17	地域の方や地域の学校と情報共有しながら、交流学习を行っている。	3.5
18	学校行事、育友会活動、学校公開など保護者や地域の方が参加しやすいように実施している。	3.7

令和6年度 自己評価(小学部)

4:十分達成している 3:おおむね達成している 2:どちらかというと達成されていない 1:ほとんど達成されていない

学部目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果(○)と課題(▲)
①自らの病気や障害の状態を知り、よりよい生活習慣を身に付け、健やかな体と前向きに生きる心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・センターや家庭と連携しながら病気や障害の状態を把握し、児童の心に寄り添う。 ・前籍校での生活にスムーズに戻ることができるよう居住地校交流を促進し支援の一助とする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○児童のリハビリの様子を見学し、自立活動の内容を決め、実施することができた。 ○居住地校交流学习をしたことで、元の学校に戻る具体的なイメージをもて、自信につながった。 ▲整形で入院しても情緒が不安定で不登校につながる場合があるので、丁寧に児童の実態を把握したり、保護者ら聞き取りをしたりしていく必要がある。 ○心身ともに健やかに登校することができた。
②進んで学習に取り組もうとする意欲や態度を育て、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前籍校と連携し、児童一人一人の実態や学習空白、学習進度を確認する。 ・ICT 機器を活用し、児童の興味関心や学習意欲を育てたり理解を深めたりさせる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの学習アプリで、漢字や算数など繰り返し学習することができ、定着を図れた。 ▲家族から離れての生活で、児童の気持ちが不安定になり授業に向かわせるのが難しいことがあった。 ○学習意欲が低く、板書を書き写すことが難しい児童に対しては、要点をまとめたプリントを使用したり、タブレット端末で記入できるようにしたり、基礎基本に絞ったプリント学習を取り入れたりした。 ○短期在籍の児童についても各教科、自立活動の目標に上げた姿に近づけることができた。
③人との関わりを通して、相手を認め思いやる気持ちを育て、豊かな情操を育み、主体的に集団生活に参加するために必要な能力や意欲、態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会、帰りの会でのスピーチや学習成果の作品を掲示しお互いを認め合う機会を意図的に設ける。 ・文化庁主催の「文化芸術による子供育成推進事業」を利用し質の高い文化芸術に触れさせ、豊かな想像力やコミュニケーション能力を育てる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢の集団で活動する機会を通して、仲間意識や思いやりの心を育むことができた。 ▲学級では、教師と一対一であり、子ども同士の学び合いや認め合う機会がない。体育や総合など合同で学習する機会は大事だと思った。 ○友だちの存在が励みとなり、不登校傾向がある児童が、学習に前向きに参加できる日が増えた。互いの良いところを尊重し合う言動が見られた。
④様々な体験的活動を通して、夢や目標に向かい主体的に取り組もうとする意欲や態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ、Ⅲ課程だけでなく、小学校の学習教科を学習する児童(特に高学年)も、体験学習を積極的に行い、生活経験を広げ将来に目を向けさせた現在の生活に意欲をもたせる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行や学習発表会という大きな行事に、不安なく参加できるように必要な情報やできていること児童に伝えながら、前向きに準備させることができた。 ○低学年は乗り物ごっこ遊びの授業で本物の駅のホームの音や発着メロディを使用した。実際の乗車体験時もこれらの音を聞いて期待感をもち、ごっこあそびと体験を結び付けた学びができた。

自己評価の数値が「2」以下の項目について

学部目標の番号	次年度に向けた改善策
	※自己評価が「2」以下の項目はない

令和6年度 自己評価(中学部)

4:十分達成している 3:おおむね達成している 2:どちらかというと達成されていない 1:ほとんど達成されていない

学部目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果(○)と課題(▲)
①日常生活に必要な生活習慣を身に付けさせる中で、健康の保持、病気や障害に基づく課題に主体的に取り組む姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の状態を理解し、日常生活に必要な基本動作や移動能力の向上を図る。 ・整形カンファや TOPPS、リハビリ見学等で、身体の状態や活動方法等の情報を得る。 ・生活面や学習面の達成目標を設定し、課題克服に向けた取組を促す。 	3	<p>○起床と就寝時間、登校時間を教室のカレンダー等に記録し、自分の体調を確認したり、達成状況をクラスで称賛したりすることができた。生徒自身目標を立て、できるだけ早く登校しようとするなど意識づけや実行ができてきた。</p> <p>▲遅刻、欠席もあるため連絡帳に達成可能な具体的な目標を立たせたり、日課や提出物を確認させたりしていくことを継続していきたい。</p>
②学習課題に取り組む中で、既習内容と関連付けさせたり、達成感、成就感を感じ取らせたりして、基礎学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の学習計画を立てさせて、朝の自主学習の時間やセンターでの学習時間に取り組めるように宿題や課題を準備する。 ・学部内で共通理解を図り、既習内容と関連させながら授業を展開する。 	3	<p>○キャリアパスポートを活用し考查に向けての意識づけや計画的に学習する様子も見受けられた。3年生は、志望校の過去問に取り組み、不得意な教科にも自発的に取り組むことができてきた。</p> <p>▲日頃の学習習慣が身に付いておらず、今後も宿題や課題を確認させながら意識づけをして、学習習慣を確立していきたい。</p>
③集団生活を通して、他人とのより良い接し方を学ばせ、人と関わることの大切さや喜びを感じ取らせたり、自己の役割を理解し、行動できるようにしたりすることで信頼と協力の心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や行事、生徒会活動等で役割を与え責任感や友達と協働性を育む。 ・行事等をやり遂げる経験や、日々の学習や校外学習における協働的な学びを通して人と関わることに大切さや喜びを感じさせ自己有用感を育む。 	3	<p>○委員会活動や学級活動を通して、友達とも協力して役割を果たす場面が増え、それぞれがコミュニケーションをとる機会も増えた。</p> <p>▲一方、友達間でのトラブルや集団学習に入れない生徒もいる。トラブルには、面談を設けて自分の気持ちを整理させたり、集団参加を促すために役割を明確にし、責任をもつ大切さを学ばせたりしていきたい。</p>
④一人一人に応じた進路指導に努め、キャリア発達を促すことで、自らの将来を見据え、自ら選択し、目標に向けて行動できる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期や行事の初めに自分ができること難しいことを振り返りながら具体的な目標設定を行う。 ・客観的に振り返りや反省ができるようにキャリアパスポートを活用する。 	3	<p>○将来の夢に向けて必要な教科を頑張ろうとする生徒や特に3年生は、志望校を明確にして、受験に必要な科目や就職に必要な資格などを調べ、学習に取り組む様子が見られてきた。</p> <p>▲時間や締切等の意識が足りなかったり、卒業後のイメージやもてていなかったりするため、キャリアパスポートを活用しながら自分に合った目標を設定し、取組を促すことを継続していきたい。</p>

自己評価の数値が「2」以下の項目について

学部目標の番号	次年度に向けた改善策
	※自己評価が「2」以下の項目はない

I 結果と改善策について

(1) 教職員アンケートの結果について

- 回答数は 33/33 で、回答率 100%であった。
- 各項目の評価が 4 **十分達成している(よくあてはまる)**もしくは、3 **おおむね達成している(ややあてはまる)**の回答がほとんどで、各下位項目の平均値についても 3.4~3.9 ポイントとなっていた。
また、3項目の平均値は「教育活動」…3.8ポイント、「教育環境」…3.8ポイント、「開かれた学校」…3.6ポイントと高い評価であった。
- 自由記述にいて、全体的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断される意見はなかった。

(2) 保護者アンケートの結果について

- 回答数は 18/18 で、回答率ほぼ 100%であった。(アンケート前後の転入者 5 名は対象から除く)
- 各項目の評価が 4 **十分達成している(よくあてはまる)**もしくは 3 **おおむね達成している(ややあてはまる)**の回答がほとんどで、各下位項目の平均値についても 3.5~3.9 ポイントであった。
また、3項目の平均値は「教育活動」…3.8ポイント、「教育環境」…3.6ポイント、「開かれた学校」…3.7ポイントと高い評価であった。
- 自由記述の内容より、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは、次の1点であった。

★「児童生徒の学校生活の見える化」に関する意見。

(『児童生徒の学校での様子が分からず、評価しにくい項目があった』という御意見)

このことについて、以下のように改善策を図る。

- 本校は、県内各地より児童生徒が転入してくるため、保護者の方もなかなか授業を見に来る機会も少ない傾向にあります。授業参観の機会だけでなく、いつでも授業の様子を見ていただけることを転入当初に伝えることで学校生活を見ていただけるようにする。
- ホームページにて積極的に学校の学習の様子を掲載しているため、ホームページの周知を面談の際に伝えたり、学校安心メールで定期的にお知らせしたりすることで、学校の取組の理解に努める。

2 学校関係者による評価について

※令和7年2月26日(水)に開催した学校評議委員会で出された意見。

- 転出入が多い学校であり近年、通学生が減少している状況で保護者の学校評価については、年間を通して評価することが難しい状況にあると思った。そのような状況下でアンケート評価については、教職員、保護者共にどの項目についても高い数値で素晴らしいと思った。これも先生方の熱心な御指導のたまものであると感じた。
- 評価の数値的には問題はないが、短期在籍であればなおのこと数値に表すことが難しい部分もあると思う。その数値化できない意見をどのように拾い上げていくかが大切であると思う。
- 特に小学部については、学年の集団が少人数になることは、今後も予想される。そのような状況下でいかに子供同士の関りや刺激し合える機会をより工夫してもらえたらいいのではと思う。
- 進路面で、全日制の高等学校に進学しても、通学が難しくなり退学したり、通信制の学校に編入したりする者もいる。特に起立性調節障害の子供については進路選択の中に定時制高校への進学も視野に入れてもいいのではと思う。
- 整形で入院している子供たちも心療の子供たち同様、心理的に不安を抱えている子供も多くいると感じる。心に寄り添った指導は、どの子供に対しても必要なことであると思う。
- 愛情をもち児童生徒の心に寄り添い関わっていくことが大切で、その上に教育を積み重ねていくことが大切であると思う。先生方もこの点に関し意識して関わってもらっているので引き続き取り組んでもらいたい。

3 総括

- 今年度より、質問項目を見直し、質問内容を精選することで、表現の違いで同じような質問事項がなく評価や分析がしやすくなった。また、教職員アンケートも保護者アンケートも同じ質問項目にすることで、比較検討もしやすくなったと考える。
- 教職員のアンケートの中で「明るく活気のある学校づくりを行っている」というポイントが3.9ポイントでした。教職員全員、このような意識をもって教育活動に取り組んでくれたことは評価できると考える。
- 各部や各分掌部の自己評価については、全体的に見て数値が「2」以下の項目はなく、すべてにおいて3～4の評価でしたが、細かく見ていくと、改善していくことで、より良い効果が見られるような課題もあるため、今年度実施したことを次年度につなげていくことができるよう検討していきたいと思う。
- 今回評価が高かった項目については、評価結果に甘んじることなく今後も取組を継続するよう努める。